

売れてる本

英語独習法

今井むつみ(著)

言語は冰山 水面下こそ学べ



岩波新書・968円
刷11万部。2020年12
刊。ビジネスで英語を使
人をはじめ、英語教育に
わる人にも好評だといっ

週間ベスト10入り↓

「おわら」。What do you say? は「和田瘦せっ」……。香港に長く駐在したくせに、私の発音は我流のまま。書けば、auther、sayatelliに迷い、そのコンプレックスは一向に解消しない。

最初は自分を責めた。だが、やがて英語圏で知り合った日本人が、程度の差こそあれ、私と同じ症状を抱えていることに気づく。外交官も教授も支社長さんも、日本育ちは、そこそこ読めはするのに、①書けない②聴けない③話せない、のである。本書の著者は、そのわけをグイグイと深掘りし、日本語と英語の間に横たわる北極海のような隔たりを解き明かす。理解できた範囲で要約すれば、英語の単語や文法、言い回しなどは薄っぺらい氷の小岩。その海面の下には、英語を母語とする人々がふだん意識せずに共有する概

念、前提、文脈、関連語といった巨大な「冰山」が隠れている、という壮大な指摘だ。著者の専門は認知科学。乳幼児が母語を覚える仕組みを研究してきた。日英に限らず、どの言語にも母語と非母語の間には冰山のような土台構造「スキーマ」の違いがあり、そちらを学ばなければ外国語は身につかないと説く。読めば目からウロコが飛ぶようにはがれていく。

「多読ではなく熟読を」(ウロコ2枚)。「映画は好きな1本を熟見すべし」(3枚)。日本人にありがちな癖をまとめた「日本人イングリッシュあるある本」では実践力はつかない(4枚)。同じ勢いで「本書読むだけで読者が英語の達人になれるとは言わない」(5枚)と率直な語りがうれしい。そうですよ、やっぱり。一学に近道などありえない。スキーマの海にもぐり込み、全身泳いでみるしかないとの結論納得する。その限りでは、私「身浮く」「おわら」式も、実践の海で編み出した発音法とえなくもない。みすみす捨てる必要はないと励まされた。

山中 季広

(本社論説委員)